

2015年3月21日(土・祝)

10:00-18:00 (9:30開場)

駒沢大学

246会館 7階 (国道246号沿い)

参加無料、事前登録不要  
(どなたでもご参加できます)

10:10-11:50

第一部

『伝達をめぐる諸問題』

松本卓也 | 精神病における「語りえないもの」について

牧瀬英幹 | 精神分析における「伝承」の問題について  
——「不可能なもの」との関係を探って

13:00-16:10

第二部

『ことばと知に基づいた臨床実践』と  
『ラカン 患者との対話』をめぐって

河野一紀 | ラカン派精神分析というコンパス

松山航平 | 『ことばと知に基づいた臨床実践』の検討  
——症状、主体の特異性としての

小林芳樹 | 現代におけるラカン派精神分析実践

片岡一竹 | サントームと大他者

十川幸司 | 普通精神病、普通倒錯：  
その理論的可能性について

16:20-18:00

第三部

『トラウマについて』

中野正美 | ラカンの臨床論

——Sonia Chiriaco, *Le désir foudroyé* を読む

向井雅明 | 精神分析におけるトラウマの問題

(なお、18:00より近隣にて懇親会を予定しております。)



東京精神分析サークル | psychanalyse.jp

この度、東京精神分析サークルでは、  
河野一紀氏の『ことばと知に基づいた臨床実践』、  
小林芳樹氏の『ラカン 患者との対話』、  
そして前回の主催コロックの内容を収録した  
新思想誌『Núξ』の刊行を記念して、  
第四回目となる主催コロックを開催いたします。  
両著作をめぐる合評会に加え、  
『伝達をめぐる諸問題』と『トラウマ』についての  
シンポジウムを用意しました。  
ラカン派精神分析に関心をもつ皆様のご来場を  
お待ちしております。

# 第四回 東京精神分析サークル 主催コロック

河野一紀=著  
『ことばと知に基づいた臨床実践  
——ラカン派精神分析の展望』(創元社)

小林芳樹=編訳  
『ラカン 患者との対話  
——症例ジェラルム、エディプスを超えて』  
(人文書院)

『Núξ』第1号(堀之内出版)  
第二特集=現代ラカン派の理論展開  
(主幹=松本卓也)

